

## 冬にアブラチャンの葉裏から見つかったゴマダラオトシブミ

西 教 生\*

*Paroplapoderus pardalis* found under a fallen leaf of *Parabenzoin praecox* in winter.

NISHI Norio\* (Tsuru University Regional Exchange and Collaborative Work Center, 3-8-1 Tahara, Tsuru, Yamanashi 402-8555, Japan)

A hibernating *Paroplapoderus pardalis* was found on the underside of a fallen leaf of *Parabenzoin praecox* on ground in the forest mainly consisting of *Cryptomeria japonica* and *Chamaecyparis obtuse* at Kamiya, Tsuru, Yamanashi (35°32' N, 138°54' E), on 6 December 2008.

### Keywords

*Paroplapoderus pardalis*, hibernating, Yamanashi Prefecture  
ゴマダラオトシブミ, 冬眠, 山梨県.

初夏から夏にかけて公園や雑木林などで多くのオトシブミ科Attelabidaeの甲虫が観察され, その揺籃もケヤキ*Zelkova serrata*やコナラ*Quercus serrata*, エゴノキ*Styrax japonica*などに普通に作られる. 産卵後, 約1ヶ月すると揺籃の中で成長した成虫が出現する<sup>1)</sup>, (西 飼育観察). しかし, これらのオトシブミ類の成虫の姿は夏以降はほとんど観察されなくなる. 櫻井・藤丸<sup>2)</sup>によると, 飼育下のヒゲナガオトシブミ*Paratrachelophorus longicornis*はその年に羽化した新成虫は8月中旬には葉も食べなくなり, 飼育箱の床に敷いた枯れ葉や紙の裏に潜ったり, 柞木の陰に移動して動かなくなるという. 伊澤<sup>3)</sup>は全ての種が成虫で越冬すると思われるものの記録は少ないとし, 海野<sup>4)</sup>も越冬場所の記録はほとんどないと記述している. 豊田<sup>5)</sup>はエゴツルクビオトシブミ*Cycnotrachelus roelofsichelophorus*, ナラルリオトシブミ*Euops konoii*, カシルリオトシブミ*E. splendidus*, ルイスアシナガオトシブミ*Henicolabus lewisii*を冬季採集で得ており, エゴツルクビオトシブミおよびナラルリオトシブ

ミ, カシルリオトシブミはスギ*Cryptomeria japonica*の生木の樹皮下から, ルイスアシナガオトシブミは林床のコケ下から発見している. また, ルイスアシナガオトシブミについてはケヤキの樹皮下や材の空洞からの記録もあるという. しかしながら, ゴマダラオトシブミ*Paroplapoderus pardalis*については知られていない. 野外においてどの種がどこで, どのように越冬しているのかという記録の記載は, 未解明であるオトシブミ類の越冬期の生態を明らかにするにあたり重要である.

筆者は2008年12月6日, 山梨県都留市上谷 (35°32' N, 138°54' E, 標高590m) において冬眠中のゴマダラオトシブミの黒色型を1頭 (図1) 発見したので, 冬眠場所の環境も含めて報告する.

冬眠中のゴマダラオトシブミはエノキ*Celtis sinensis*の根元の, 地上に落ちたアブラチャン*Parabenzoin praecox*の葉裏から発見された. アブラチャンの葉は表面が上を向くように地上に落ちており, ゴマダラオトシブミは葉の裏側にいた. 撮影のために葉を持ち上げても, ゴマダラオトシブミは動かなかった. アブラチャンの葉は他の落ち葉に軽く埋まれる程度で, ほとんど地表部分にあった. 環境は樹

\* 〒402-8555 山梨県都留市田原3-8-1 都留文学大学地域交流センター E-mail: n-nishi@tsuru.ac.jp



図1 アブラチャンの葉裏で冬眠するゴマダラオトシブミ



図2 冬眠場所の環境

齢約50年のスギ，ヒノキ *Chamaecyparis obtuse* の植林地の中にある少し開けた日当たりのいい場所で，周辺にはアブラチャンが点在し，数本のケヤキが見られた（図2）．植林地の中には幅2-3mの枯れ沢が通っており，発見場所はその沢の右岸部分，沢から約9mの高さの位置だった．

ゴマダラオトシブミが発見された場所から半径2mの範囲にある落ち葉をめぐって探したが，他に冬眠中のオトシブミ類は発見されなかった．ゴマダラオトシブミはアブラチャンの葉裏で冬眠していたことから，発見場所から6-25m離れた最も近くにある11本のアブラチャンの根元から半径1mの範囲の落ち葉もめぐって探したが，冬眠中のオトシブミ類は確認できなかった．また，11本のアブラチャンが生えている場所の日当たりのいい斜面（高さ2m，幅25m）も調べたが，ここでもオトシブミ類の発見には至らなかった．

ゴマダラオトシブミはクリ *Castanea crenata* やコナラなどブナ科Fagaceaeを寄主植物とすることが知られているが，本個体が発見された周辺ではこれらブナ科の樹木は生育していなかった．

## 引用文献

- 1) 筒井学，萩原清司，相馬正人，樋口幸男：“飼育と観察”（2005），（小学館）．
- 2) 櫻井一彦，藤丸篤夫：“オトシブミ観察事典”（1996），（偕成社）．
- 3) 伊澤和義：“オトシブミ・チョッキリの世界”（2007.8.10），〈 [http://www.d1.dion.ne.jp/~k\\_izawa/](http://www.d1.dion.ne.jp/~k_izawa/)〉（参照2008 Jun. 13）．
- 4) 海野和男：“葉っぱをまく虫 オトシブミの季節”（2006），（新日本出版社）．
- 5) 豊田浩二：昆虫ニュース，**120**, 6（1997）．

査読者の方には本稿の論点を明確にするコメントをいただきました.記して感謝いたします.

（2009年3月24日受付，2009年8月26日受理）